

在日米軍の統合軍司令部への アップグレードの開始について

令和 7 年 3 月

防 衛 省

在日米軍の統合軍司令部へのアップグレードの開始について

1. 概要

- ◆ 2024年4月、日米は日米首脳会談において「二国間でそれぞれの指揮・統制の枠組みを向上させる」旨コミットメント。これを受け、同年7月の日米「2+2」において、米国は、在日米軍をインド太平洋軍司令官隷下の統合軍司令部として再構成（アップグレード）する意図を表明。
- ◆ 令和7年3月、自衛隊の統合作戦司令部（JJOC）の創設とタイミングを合わせ、在日米軍は統合軍司令部へのアップグレードを開始。
- ◆ 自衛隊と米軍の運用面での協力をより一層強化するため、在日米軍に、新たに、JJOCと米軍の連携を専門に扱う部署を設置。
- ◆ 新設された当該部署の人員は、赤坂プレス・センターのサテライト・オフィスを拠点とし、日常的に防衛省・自衛隊等のカウンターパートと連絡・調整を行う予定。なお、本部署の設置のみをもって、在日米軍が統合軍司令部にアップグレードされたこととなるわけではなく、統合軍司令部が赤坂プレスセンターに設置されるものではない。
- ◆ 今般開始された在日米軍の統合軍司令部へのアップグレードについては、今後も米国内での検討を経た上で段階的に進められるものであり、引き続き、日米の作業部会を通じ議論。

2. 意義

- ◆ インド太平洋地域の安全保障環境上の課題が一層複雑さを増す中、今般の在日米軍のアップグレードの開始は、平時及び緊急事態における相互運用性及び日米間の共同活動に係る協力の深化の促進に向けたものであり、また、新たにJJOCと米軍の連携を専門に扱う部署が設置されたことは、日米間の一層緊密な連携にもつながる。

在日米軍の統合軍司令部へのアップグレードの開始について

3. アップグレードに伴う影響

◆ アップグレードに伴う影響について米側からは、

- 今般の在日米軍の統合軍司令部へのアップグレードの開始は、在日米軍内部に自衛隊と米軍の連携を専門に扱う部署を設置するものであり、これまでの在日米軍の役割を担い続けることに変わりはない。
- また、新設される部署に所属する要員の多くは、既に在日米軍に配置されている要員が再配置されるものであり、今般の部署の設置によって在日米軍司令部全体の人員が大幅に増加する見込みはない。
- 新たな施設の新設や大規模改修の予定はない。また、航空機等の地元に影響が生じるような新たなアセットの配備をする計画は現在なく、近隣への騒音等の影響は発生しない。

との説明を受けている。

◆ こうしたことから、防衛省としては**基地負担の増加にはつながるものではないと認識**している。いずれにしても、米側の統合軍司令部の細部については、引き続き、米国内での検討を経た上で日米の作業部会で議論されていくところ、**今後とも米側に対し、周辺住民の方々への影響が最小限となるよう粘り強く働きかけるなど、可能な限り基地負担の軽減に努めてまいる。**